

I T 未来高等学校で高度なA I 教育を開始

生成AIの発展に伴い、社会ではAI等を開発する技術者、いわゆる「AI人材」の育成が喫緊の課題となっていることから、茨城県教育委員会では、AI人材育成の手立てとして、I T未来高校とつくばサイエンス高校で、高度なAIに関する授業を昨年度に引き続き9月から(株)サードウェーブと連携して実施します。今年度のI T未来高校は、昨年度実施したLLM（大規模言語モデル）開発からさらにステップアップし、生成AIで画像や動画なども扱えるようにするためのAI技術「マルチモーダルAI」に挑戦します。

下記のとおり授業を開始しますので、ぜひ御取材ください。

記

■日程・内容

日付	会場	日程	授業内容
令和8年 9月7日（月）	県立I T未来高等学校 （笠間市大田町352-15）	① 8:50～10:40 ② 13:35～15:25 ※①と②については、同じ内容となります。	・Transformerの構造 ・LLMの記憶 ・MoE

＜授業の詳細＞

普段何気なく使っている対話型AIの仕組みを「文章が生まれる流れ」「会話を覚える方法」「巨大なモデルを動かす工夫」を1つずつ細かく確かめていきます。

■第1章 Transformer（文章の単語同士の関係を捉え、文章を効率よく処理・生成するAIの仕組み）

LLMの中核であるTransformerの構造を、文章を受け取ってから返事を出すまでの順に学びます。

例えば「納豆で有名な水戸は茨城の〇〇」という1つの文が、次の言葉の予測へとつながるまでを、実際の数値を使ってステップバイステップで追っていきます。

■第2章 LLMの記憶

普段の対話型AIが当たり前のように行っている「会話を続ける」という振る舞いと、その根幹にある記憶の仕組みを学びます。

例えば「私の名前は〇〇です」と伝えた相手が、次の質問でその名前を答えられるのはなぜか、新しいチャットを開くと途端に忘れてしまうのはなぜかを取り扱います。

■第3章 MoE（Mixture of Experts：モデル全体を常に使うのではなく、必要な部分だけを使う手法）

大きなモデルほど賢くなる一方で、動かすのが重くなるという問題と、その緩和策の1つであるMoEという仕組みを学びます。

※つくばサイエンス高等学校については、令和8年10月5日（月）から開始予定

■昨年度の授業の様子



I T未来高校で(株)サードウェーブのAIエンジニアが講義をする様子



つくばサイエンス高校で個別にアドバイスをする様子

【本資料についてのお問い合わせ先】

教育庁学校教育部高校教育課指導担当

課長補佐 小松崎 理

指導主事 中村 圭吾 TEL 029-301-5260